

様式第3

会 議 録

会 議 名	令和5年度第2回野田市男女共同参画審議会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 人権・男女共同参画推進審議会について（報告）（公開） 2 委員提案による男女共同参画の協議について（公開） 3 その他（公開）
日 時	令和6年2月14日（水） 午後3時から午後4時24分まで
場 所	野田市役所低層棟4階 委員会室
出席者氏名	<p>会長 横川 しげ子</p> <p>副会長 石原 和子</p> <p>委員 飯塚 忠明 高倉 明実 佐喜川 貞子</p> <p> 芝元 理恵子 横川 清人 田中 恵子</p> <p> 国松 実枝子 筒井 圭子 小川 恵美</p> <p> 清水 宏子</p> <p>事務局 鈴木 有（市長）</p> <p> 小林 智彦（福祉部長）</p> <p> 山本 茂（総務部参事（兼）行政管理課長）</p> <p> 安藤 剛行（生涯学習課長）</p> <p> 間々田 英示（指導課長）</p> <p> 長谷川 友久（指導課指導主事）</p> <p> 宮崎 英雄（人権・男女共同参画推進課長）</p> <p> 東風谷 一（人権・男女共同参画推進課長補佐）</p> <p> 高塚 和枝</p> <p> （人権・男女共同参画推進課長補佐（兼）啓発係長）</p> <p> 山崎 覚</p> <p> （人権・男女共同参画推進課 七光台会館長）</p> <p> 西村 和芳</p> <p> （人権・男女共同参画推進課 谷吉会館主査）</p> <p> 鈴木 一敏（人権・男女共同参画推進課主任主事）</p>
欠 席 委 員	平野 博幸 矢口 國男 園田 有紀 出井 康裕

傍 聴 者	2名
	令和5年度第2回野田市男女共同参画審議会の会議結果(概要)は次のとおりである。
人権・男女共同参画 推進課長補佐(兼) 啓発係長	<p>令和5年度第2回野田市男女共同参画審議会を開会する。 欠席委員の報告をし、会議録作成のため録音機及び音声文字変換機を使用することについて了承を得る。 会議の公開及び傍聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明する。 過去の審議会において、会議録における発言委員の氏名の公表並びに会議資料、会議録及び委員名簿のホームページ公開が決定していることを説明する。 送付済み会議資料及び本日配付資料の確認をする。 市長の挨拶を求める。</p>
市長	<市長挨拶>
人権・男女共同参画 推進課長補佐(兼) 啓発係長	会長の挨拶を求める。
会長	<会長挨拶>
人権・男女共同参画 推進課長補佐(兼) 啓発係長	市長が公務のため退席することを告げる。
	<市長退席>
人権・男女共同参画 推進課長補佐(兼) 啓発係長	野田市男女共同参画審議会条例第6条第1項の規定により、会長が議長となることを報告する。
議長(会長)	<p>議題1 人権・男女共同参画推進審議会について(報告) 議題1について、事務局へ説明を求める。</p>

<p>人権・男女共同参画 推進課長</p>	<p>資料に基づき、議題1 人権・男女共同参画推進審議会 について説明。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>委員に対し、質問、意見を求める。</p>
	<p>（質問、意見無し）</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>議題1 人権・男女共同参画推進審議会について報告、 了承とする。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>議題2 委員提案による男女共同参画の協議について 議題2について、事務局へ説明を求める。</p>
<p>人権・男女共同参画 推進課長</p>	<p>資料に基づき、議題2 委員提案による男女共同参画の 協議について説明。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>ただいま事務局から説明がございましたとおり、皆様から 御提案いただいた議題について話し合いたいと思いま す。まずは具体的な話合いの方向についてお諮りします。 今回は私たちが自由な形で、男女共同参画について話し 合う場ですので、事務局へ説明を求めません。一つのテー マを決めて時間をかけて話すか、また、提案いただいたも のを10分とか時間を決めて全てを話し合うか。いかがいた しましょうか。</p>
<p>国松委員</p>	<p>思っていたより、1時間ぐらいかと思っておりましたけ れど、少し時間があるようですね。せっかくの協議会で、 なるべく皆様が意見を出しやすいような形にした方がいい と思うのです。ですので、時間の制約を設けず、一つのテ ーマで制約するのではなくて、後から話しますけれども、 この時間ですと三つぐらいのテーマで話せると思うのです けれど、初めは一つのテーマをじっくりと取り上げて、お 話をするのはいかがでしょうか。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>ただ今、国松委員から意見がございましたけれども、全て ではなく、一つのテーマをじっくりと話し合うということ</p>

国松委員	<p>でございますが、いかがでしょうか。</p> <p>それに二、三加えるということですね。余り一つにこだわらず。</p>
議長（会長）	<p>二つか三つぐらいのテーマを話し合うということでしょうか。いかがでしょうか。他の方は。</p> <p>（賛成の声）</p>
議長（会長）	<p>それでは、一つのテーマプラス二、三ということで、時間の制限をしないで一つをじっくりと話し合うということで進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは、テーマがまず四つございます。</p>
国松委員	<p>せっかく、前もって皆様の意向を調査してくださって、大変良かったと思うのです。それで第4のところを、一番皆様が御希望なさっていらっしゃるって、ワークライフバランスの推進ということで、この中にはいろいろな問題が含まれますので、テーマとしては、非常にいいのではないかと思います。まずこれを取り上げていただいたらいかがかと思ひます。</p>
議長（会長）	<p>国松委員からワークライフバランスについてどうかということがございましたが、御提案の方も一番多かったようですので、皆様もいかがでしょうか。</p> <p>（異議なしの声）</p>
議長（会長）	<p>それではワークライフバランスについて進めてまいりたいと思ひます。</p> <p>御提案いただいた方々、他の方も、もし御提案がございましたら、お手元のマイクを入れてからお話しいただきたいと思ひますが、どなたかいらっしゃいますか。</p>
田中委員	<p>こちらの提案をさせていただいたのですけれども、私は、</p>

議長（会長）	<p>ひとり親家庭の支援をしております、ひとり親家庭というのは、仕事と家庭の両立がなかなか難しいのですね。離婚したての場合など、特に保育園が見つからなくて、仕事ができないというのがあります、もう少しどうにかできないかなと考えております。</p> <p>それで、皆様に何かアイデアとかがあれば、教えていただきたいと思いました。</p> <p>ただ今田中委員からひとり親家庭ですと、保育園児などの小さいお子さんをお持ちですと、なかなかお仕事の方がうまくできなくなるという御意見がございましたけれど、これはどのようにしたらよろしいと思えますか。</p>
国松委員	<p>仕事を持つ親にとって、保育園はとても大切なものです。私も何年も前からかなり気にしております、この頃余り質問しないのですけれども、あるときまでは、野田市の現状で、保育園を希望する人が必ず入所できているのかということを知っていました。かなり、市の方も努力してくださって、3年くらい前は、ほぼ希望者全員が入れるような状況になったと思えますけれども、現在はどうかのでしょうか。ほかの市に比べますと、野田市は保育園に関しては大変行き届いていて、保育園に行けない自治体が千葉県の中でもあるのです。現在はどうかしているのか、私も知りたいと思っております。</p>
福祉部長	<p>今回の話について、今田中さんからお話があったお答えではないのですけれども、多分、今の話というのは、状況が随時分かるとか、何かで広報しているとか、そういう情報がきっと皆様のところへ行き渡っていないのではないかと思います。例えばそういう部分について、今こういう意見があったのを私どもが聞いて、では、これはこういう形で新たな施策にしていこうとか、例えば毎月1回、こういう情報を出さなくてはいけないのだろうとか、そういう意見を、私どもで吸収させていただきたいと思っております。なので、今、どういう状況というのは、私自身も分かっていないのですけれども、そういう意見があるということが必</p>

議長（会長）	<p>要なので、皆様の中でそういう情報が必要なために、市としてはどういう情報提供ができるかというのを皆様の意見を聞きながら考えていきますので、まずここで答えが出ないので大変申し訳ないのですが、そういう気持ちで聞かせていただければと思います。</p> <p>私も今日、自分ごとで申し訳ないのですが、今朝、孫が熱が出て、保育園で見てもらえないということです。仕事をしているので、急なときの対応など、難しいことなのかもしれませんが、そういう何か施設があるとうれしいと思いますが、いかがですか。田中委員。そういう困ったことはございませんか。</p>
田中委員	<p>野田市で、病後児保育はあります。そういう病気のと看に見ていただけたるところです。ただ、お母さんとしては病院に連れて行かなくてはならないですし、そのあと仕事に行くというのはなかなか難しいのかなと思います。</p>
議長（会長）	<p>失礼いたしました。野田市では、急なことでも見ていただける機関があるということですが、ただそれを知らない方も、今のお話に通じることなのかなと思いますが、お母様方にはそういう情報は伝わっているのですね。</p>
田中委員	<p>ひとり親家庭の方がいる場合には、支援の説明をします。のでそういった方がいらしたときは、そういう状況であればお伝えします。</p> <p>一般の方にも分かっていただいた方がいいと思いますので、周知はした方がいいと思います。</p>
議長（会長）	<p>せっきくのすばらしい機関があるということでしたので、それをどのように周知するかということが、一つの課題なのかなということですね。ほかの方はいかがですか。</p>
芝元委員	<p>方向性としては、ワークライフバランスの推進で、私、一番上の方で 20 年後どんな結果になっているかみたいなことを書いたのですけれども、ワークライフバランスを推進</p>

した結果、20年後、野田市がどのような生活ができるようになっていけばいいのか。ということがあって初めて、そこに行くための過程としてこういう施策が必要である、というようなことが見えてくるのかなと思っています。

例えば、なぜ20年後と書いたか、根拠はないのですけれども、10年後だと無理かもしれないけれど、20年後に変わっていなかったらスピード感がなさすぎるのではないかと思ったのです。

私が20歳くらいのときから、もう男女共同参画のような考え方がありまして、そこから40年以上たっているのですが、どれだけ実現したかを考えるとスピード感がなさすぎないかと。本当に実現しようと思ったら、こういう目標があって、そこに行くためには、ではその前の段階、これできていなければいけないよね、この前にはこれできていないといけないよねというのを、もう少し具体的なイメージとして、ここにいる方だけではなくて、市民の皆様や、あるいは引っ越し先として、どこに引っ越そうか、流山、子育てするなら流山、それとも野田市にしようか、というようなときに、こういう目標がある、今実現しているこういうことがある。保育園は実は野田市がいいですよ、ということをどんどんアピールしないといけないし、実現すべき項目と、その達成率のようなことがあって、計画、実施ということではないかと思うのです。

だから方向性はもちろん、市民がふれあい協働する都市というのは、もちろん方向性ですけれども、何か具体的なイメージは皆が共有できるようなものではないなという気がして。何かもう少しこう、例えば、20年後の世界になったら、私の家はお父さん、お母さんがいて、子どもが2人いて、2人働いています。隣の方は、障がいがあるけれども、お子さんがいらして、補助を受けながら働いているとか。何かそういう具体的なイメージがあるといいと、強く思うのです。それでそのいろいろなイメージにたどり着くというか、今例えばこういう男女共同参画のプランがあったとしても、普通の市民の人がこれを見ようと思わないし、見ても何もイメージできないし、何かもう少し具体的なイメージにたどり着けるような、何か、具体的な方法は私も思

いつかないのですけれども、あるいは何かが、若い方が発信、今できるような、皆年齢的には割と上の年齢層なわけですけれども、今の高校生や20代、30代にとっては、多分男女の仕事の分担の仕方なども全然意識が違ってきていると思うのですね。それを更に進めていくとしたら、子どもたちに何を今分かってもらえばいいのか。例えば、高校だと、今県立高校でデートDVの講習会とかをしていて、それも人権の話で、お互いに尊重しましょうという話だと思うけれども、お互いに尊重しますという話が全てにいくような気がしていて、例えば小学生のときには、こういうのを教えるようにしましょう、中学生にはこういうことを分かってほしいですね。大人になっても結婚しても結婚しなくても、パートナーがいる暮らしをしたら、お互いにこういうことを意識していないと、あるいは意識すると、お互いに尊重し合った生き生きとした暮らしができますね。というようなことが、割とみんな共有のイメージである野田市であるといいのかなと思うのです。そうすると、男女共同参画の今のテーマでいったワークライフバランスの推進ということだと、小学校くらいから教えられることがあるかもしれないし、学校で教えるだけじゃなくて、何かイベントをしてそこに参加してもらおう中で、というようなことも何かいろいろあって、そういうステップステップステップで、ここまでにこれができていなければいけないよねということがきちんと達成率のようなものがある計画であるといいのではないかなとすごく思います。少しそれてしまったかもしれないけれども。その具体的な方法の中で、あの保育園ではこういうことがないと働けませんよねとか、障がい者の方にはこういうことがとか、私は障がい者を抱えているお母さんたちお父さんたちが働きにくいとかというの、ここと同じ話だと思うのです。全ての人が、きちんと輝けるということにいくと。それは、男女共同参画という言葉自体が、私が若い頃にできた言葉なので、もはや少し範囲が違ってきていて、ダイバーシティというような言葉の方がしっくりくるのかなと思うし、結局は全て人権だという印象を持っています。少しずれてしまったかもしれませんが、そのように思っています。

	<p>もう一つ、ここに若い方はいないのですが、若い方がこういう審議会の場に参加することはなかなか難しくても、そういう方が思っていることを、ポツンと何か取り入れることができるのなら、SNSでなのか分からないですけども、こういうことを思っていますということを、投稿してもらい、それをラジオ番組で特集にするなど、こういうところで若い人たちこういうことを考えていると具体的な意義があるとか、そういうことをするといいかもしれないと思うのと、あと、野田市からも何か発信するときに、PDFだともう読めないで、何かインターネットで検索してとか、ここをクリックすると知りたい情報にたどり着くということであればいいのですけれども、PDFでありますと言われても、それはもうスマホの時代では余り情報の発信源としては、有力ではないのかなと思います。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>とても難しいというか、幅の広い、やはり私たちの時代は、男女という、男らしさとか、女らしさというのが普通でしたけれど、今の若い方は、そうではいけないというか、考え方を考えていくとか。今おっしゃったように、若いときからそういう意識を変えていくということですよ。それをどのようにするかということなのかなと思います。また、若い方の意見、考え方、それを簡単に吸収する場所があると、若い方がどうしたいのかということも分かると思います。先ほどおっしゃったように、審議会に若い方がいらっしゃるということは不可能という状態にありますのでね。要するに、若い方の情報をどう吸収するかということかなと思います。そうしますと何をすべきかということが見えてくるのかなと思います。</p> <p>ほかございますか。</p>
<p>横川（清人）委員</p>	<p>私は、野田市の北部の方で、PTA会長を6年間やらせていただいております。その中で、私が、お父さんお母さんたちと接して感じたことがいろいろあるのですけれども、先ほど芝元委員もお話されていたのですが、やはり格差がどうしても出てしまうということで、現状で変わっていないのではないかと思います。提案や対策とかではなくて現</p>

状の報告をさせていただければと思います。

小中学校 32 校、市内にあると思うのですけれども、私の行っている学校は、お父さん、お母さんが共働きで忙しくても子どもたちのために学校教育、又は安全の旗振り当番などにお忙しい中参加していただいて、そこに子育てに対しての男女の壁というのではないとは言いませんけれど、少なくなってきたのではないかなと思います。考え方だと思います。それで、運動会のお手伝いなど、いろいろなイベントのお手伝いも、10 年前や、私が子どもの頃は、お母さんがほとんど出ていたと思います。PTA 活動です。しかし、最近は結構、お父さんが本当に多いです。いろいろ職場の環境が変わって出やすくなったというのもあると思うのですが、大分ですね、その辺りの男女の、お父さん、お母さんが子育てをしなければいけないとかというのは、大分少なくなってきたのではないかと思います。私は、造園業ですけれども、建設現場で働いておりまして、また報告になるのですけれども、大手ゼネコンでは、建築現場とか行くようなことが多々あるのですけれども、そこで最近感じたことは、非常に女性が多いです。大手ゼネコンの監督は、多分 10 人中 2 人くらい、1 割か 2 割は女性の方、一生懸命頑張っています。そういう設計や、図面を書くなどには、すごく女性が向いていて、一生懸命頑張っているのですよね。ビルを建てるにしても、植栽に関しての修景の設計に関して、とてもセンスが良くて現場の一線で頑張っています。もちろん力仕事というのは、どうしても体力的な面で男性の方が少し有利になってしまうところがあるのですけれども、私がやっている造園関係の中では、女性の方も、足袋を履いて、高い木に登って、上から下まで枝を下ろしてきたり、片や重い植木を持って、植えてみたり、男性も、力ではもしかしたら勝ってしまうかもしれないですけれども、意識の上では女性の方が非常に頑張っています。昔は、現場も 3 K といまして汚い、きつい、危険、又は給料が安い、休暇がない、格好悪いという 6 K までいって、若者の数も減少の一途をたどっていたのですけれども、最近は女性が入ることで少し雰囲気が変わってきているのです。大手も少しその考え方が変わって、新 3

Kというのができまして、給料が良い、休暇が取れる、希望が持てる。そういう雰囲気を作っています。現場に行くと全然違います。昔のような臭い汚いとか、そういうのは一切ないです。トイレも綺麗です。帰りはシャワーもあって汗を流して帰ります。やはり現場環境も少しずつ変わってきて、今は女性も働きやすい環境にはなってきていると思います。

あと、少し長くなって申し訳ないのですがけれども、私は個人で先々週、先週と七尾市と珠洲市のボランティアへ行ってきました。今週も少し輪島の方へ行かせていただくのですがけれども、そこで第一線で活躍しているのは、女性の方でした。県の出向の方で、来ているのですがけれども、先ほど見たときに書いてあったのですがけれども、3番目、男女共同参画の視点に立った地域防災対策の推進ということで、防災に当たっても、やはり女性目線に立たないと分からないところは結構あると思うのです。やはり立っている人が男性ですと、もう男性目線でしか考えられないので、少しお話を聞かせていただいたら、やはり女性目線でもということ、いろいろ女性の方がメインでやっているそうなのですが、しかしその女性の方も、建物がもう少し斜めになっているところへ入って行って、2階から20キロもあるぬれた畳などを、一緒に運んだりしています。ですから現状、少しずつ変わっていると思います。昔みたいに皆様が、私が小さい頃、男だから女性だからというのは、多分考え方は少しですがけれども、変わってきているのかなと、私は少し感じました。

だからこうして、すみません話が飛んでしまって申し訳ないけれども、PTAも、私は今年で終わってしまうのですがけれども、次年度は多分女性の方がPTA会長で、他の学校も出てきているのですがけれども、女性の方が頭になって頑張ってきている、そういう現状でもあります。

議長（会長）

とても貴重な御意見で、やはり、前の意識から変わっているということで、現場でもそういう状況であるということは良かったなと思っております。また、こういう審議会、男女共同参画を推進している、その結果も少し、具体的にど

	<p>のような、どこがどうなのかということとは分からないのですが、それも出ているのかなと感じます。</p>
国松委員	<p>すみません。今のお話の中で、新3Kということおっしゃって、全部きちんと聞きたいので、教えてください。</p>
横川（清人）委員	<p>新3Kは、給料が良い、休暇が取れる、希望が持てるということです。</p>
国松委員	<p>いいですね。素晴らしいですね、ありがとうございました。</p>
高倉委員	<p>先ほどいろいろお話を聞かせていただいたのですが、私も自治会や防災、地域活動の男女の関わりということで提案したのです。やはり男女平等を叫ばれて、かなり年数がたちますが、企業ですと企業努力として、私も一応定年まで働いていたのです。ですから、それから、いろいろ経過を見てみますと、すごく企業努力として、女性の役職は進んでいると思うのです。行政もここは女性の委員の方がかなり多いと思うのですが、その行政の方も、行政の努力で随分変わっていると思うのです。先ほど横川委員が話されたとおり、PTAの方などは、男女が本当に仲良く手を携えてやっていると思うのです。私もPTAの方はかなりやっていたのですが、そのときは本当に女性だけで最後の方に男性の方も遊具塗装しましょうとか、そういうのになってこれからどんどん進んでくれば良いなと期待していましたが、今聞いて安心しました。</p> <p>それと、自治会は、やはり、今でも男性社会だと思うのです。夢みたいに思われるかも分からないのですが、女性が連携して地域でお子さんを見守ってあげられれば、いろいろ最近問題になっている虐待なども救われるのではないかと思うのです。ですから、女性が自治会で手をつなげるような状態を作れば、作っていただきたいです。もし自治会で私が女性も委員を出させてくださいとなると、やはり攻撃があるのではないかと思うのです。ですからそこを、どこかのところでもう少し進めていただければと思</p>

	<p>います。それから消防は、今、すごく人手不足ですよ。それも男性を入れるということの頭しかないと思うのです。女性も消防に加わってもいいのではないかと思うのですけれども。なかなかよく説明はできないのですけれども、ただ、自治会が本当に母体になって、地域の子どもたちを守る、おばあちゃんちではないのですけれども、そういう組織づくりをすれば、安心して、そこの自治会の誰々が預かってくれるかなということで、少子化も免れるのではないかなと思うのです。今、核家族と言っていますが、核家族ではなくて地域の子どもたちということで、よく説明はできないのですけれども、そのように考えます。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>ありがとうございます。とても貴重な御意見だと思います。私も、消防といいますと男性、という感じで見えておりました。ハッとしました。いかがでしょうか。女性の方が入っている方もいらっしゃるのでしょうか。消防団ではなくて地域の消防の方がとても少なくなっているということは伺っております。女性に目を向けていくということもとてもいいのかなと。先ほど横川委員がおっしゃったように、女性の目線で見ると、男性で分からないところがある。ですから、絶対にこれは男性であろうという団体であっても、見直すことが必要だと思います。</p>
<p>飯塚委員</p>	<p>人権擁護委員会の方から、推薦を受けています。まず野田市の人権擁護委員は、9名いるのですけれども5名が女性で、男性は4名。一応広報には名前が出ています。男女比で言いますと、前は男性の方が多かったです。今県の人権相談は、子どもに関わる問題と、女性に関わる問題は、圧倒的に相談件数が多いということです。女性問題に関しては、本当に職場の中で差別を受けているとか、当然企業の給与差別などがあり、そういう案件も、電話相談ですけれども、私が直接受けたこともあります。電話相談ですけれども。現実、やはり女性が社会の中で、なかなか地位向上というところで課題があるのかなと、男性はどの程度、女性の地位向上を意識しているのかということで、私が所属しているある組織があるのですけれども、自治会とも関わるので</p>

すが、自治会の役員はほとんど男性なのですね。その中で、民生委員は女性がやればいいという。なぜですかと言ったら、おばあちゃんたちは男性に訪問されるのが嫌だという。圧倒的に民生委員は女性の方がいいという意見が多いです。そこはどうかののだろうか。民生委員の比率は私は把握していませんけれども、人権擁護に関しては県の中でもやはり男性の方が、野田市は女性の方が多いのですけれども、全体で見ると男性の方が多いです。千葉県のお会長の会長は女性です。またこの間、日弁連の次期会長が女性になりましたよね。すばらしいなと思います。そのように、段々といろいろな分野で女性がどんどんトップの方になっていくのではないかなと思います。

私が住んでいるところの隣の、茨城県の境町ですけれども、非常に魅力があって、私も買物は大体そこへ行きますが、何が違うのかなと思います。ふるさと納税でかなり稼ぎましたけど。それだけではないのですけれども、若い人たちが非常にオープンになっているのです。施策もオープンだし、何をやっているかということと何をやりたいのかということが明確です。

私も、野田市の住民ですから、野田市の広報紙を隅から隅まで、それからホームページも全部読みます。広報、ホームページも随分変わってきているのですけれども、果たして若い人たちはどれくらい見ているのかなと思います。つまり広報紙は多分若い人は読まないと思います。ではスマホで野田市のホームページへアクセスするのだろうか。だから、その辺もう少し、野田市の市民なのだから、これからの野田市、先ほどそれをおっしゃっていた方がおられました、20年後の野田市などをどれだけ若い人たちに意識化できるのか。

私、実は前に勤めていたのが学校関係だったのです。千葉県ではなくて埼玉県だったのですが、教員の中でも、男女差別ではないのですけれども、かなり現実がありました。今、どうかの少し分からないですが、圧倒的に女性の教員が多いのです。うちも子ども3人、妻がかなり頑張っていました、あるとき、その学校でですね、妻が校長に、ま

	<p>た産休を取るのかと。うちの妻のときは育休制度はなくて、私も子育てに協力しました。保育園に入れてね。しかし、かなり現場でその管理職からプレッシャーがあって、結局、私が退職させたのです。</p> <p>今の時代の先生方は、育休制度もしっかりあります。しかし、男性教員が育休を取れますけれども、どれくらいとっているのかな。例えば野田市。私が勤めていたところで埼玉県ですけど、誰一人いまだに取っていません。つまり女性が子育てすればいいという意識が、いまだ学校現場でも、あるのではないかなと。そういう現実を実際に私は経験したので、教育界がそういうのであれば、これはなかなか難しいだろうと思います。男女平等意識というか、それを子どもたちに伝えていく。先生方が、いや、野田市が平等だよと。野田市で子どもを産み育てるといふ、そういう環境を作り上げていかななくてはいけないのではないかなと。こういう審議会があるということで、私は推薦を受けて入りましたけれども、非常に素晴らしいと思います。</p> <p>いまだに地元では、感覚的なことですけども、おじいさんの方が威張っていて、圧倒的にじいさん社会だなと思います。私は新米ですから、余り出しゃばったことは言えないのですが、これからやはり、40代50代あたりがどんどん変わって行って、女性ももうガンガンいろいろなことを言っているのではないかと思います。やはりそれが、それぞれの家庭で、言っではいけないという風潮はあるのではないか。ここに少し男性は意識しているのかということで、私は意識しているつもりなのですが。野田市の男性は、どうなのかなということで、その辺のPRというかホームページの中にいろいろ書き込めるような、そういうものがあるといいのかなと思うのです。</p> <p>議長（会長） 教育現場でも、現在はどうなのかわからないのですけれど。</p> <p>小川委員 大変貴重なお話を聞かせていただき、感心するばかりです。今、飯塚委員のお話を聞いて、私も若いときは、そういった風潮は少しあったかなということを今思い出しまし</p>
--	---

た。今、本当に変わってきております。学校というのは、子どもたちにいろいろな話をしたり、やってみせたりという場面が多い場所ですので、私たちの働き方一つも子どもの目に映るということで、いろいろなことを考えながらやっております。先ほど芝元委員さんから、男女共同参画全てが人権教育だというお話を伺って、全く私もそのとおりだと思っております。男女という分け方よりは、やはりその人が自分の良さを出して、いかに参画していくかということに尽きるなということで、野田市の学校は、私が教員になった頃ですからもう、30数年前から人権に取り組んできておりまして、若いときからやっております。子どもたちに対して、人としてどうかということはずっと教育でいろいろな形でやってきたところです。先ほどいろいろなお話を聞いて、企業もすごくよく変わっているというの、すごいなと思い、聞いていたのですが、ひょっとしたらやはり学校教育も少しずつ変わってきて、積み上がってきて、そういう教育を受けた子どもたちが、例えばそのゼネコンさんのお話もすごくいいと思ったのですけれども、新しい考えをずっと取り入れることができる子どもたちが増えて、それが大人になってきて、じわりじわりといい方向に向かっているのかなと、少し安心した感じがあります。例えば教職員の働き方を見ますと、ブラックと言われていますけれども、本当に子どもと一緒に過ごすというのは、大変感動的な時間ばかりで、つつい仕事は長引いてしまうというのはあるのですね。そういったところが余り報道されずに、大変な部分だけをクローズアップされてしまい残念ですけれども、先生方が長く学校にいるのは、やはり楽しいからというのもありまして、とてもいいですね。私も3人子育てをしましたが、私の場合は、近所に住む実家の母等の手を借りながら、それから御近所の手を借りながら、本当に子どもの友達のお母さんをお願いをする場面もあったり、働いているお母さん同士でやはりネットワークを持って、過ごしたりというのがありましたので、学校の先生はそういう方が多いです。ですから、ひょっとしたら、普通の企業よりは随分、その横のつながりでうまくいけるのかなというところはあります。そして学校というのは、仕事

の上で男女の差が全くない、多分こんな仕事はないのではないかというぐらい全く同じ仕事をします。ただ、その先生の持ち味というのがあって、それが女である男であるというよりかはその人の持ち味という形でやっていきますので。一番いい形で理想な姿を見せることができるのも学校なのかもしれないなどということを今、痛感しながら言った訳です。現在、例えば男性の先生も、お子様が風邪をひいたと言え、休みます。今コロナ、インフルもはやっていて、子どもたちもたくさん休むのです。インフル、学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖もあります。そういう中で本校の職員もお母さんだったりお父さんだったりする訳ですから、お子様が病気になるのです。私自身もコロナになったこともありますし、職員も病気になります。そういうときには、お互い様というのをもう本校は日頃からすごく言っていて、先生たちがうまく穴が開かないようにやるシステムがすごく良くできていますので、以前より随分働きやすくなっているということがあります。それと合わせて、先ほどの新3Kの話、私もね、メモを取りましたが、休暇が取りやすいというのが一番子育てに関係してくるかと思うのです。しかし、皆が休んでいたら、肝心なこともできないので、やはりうまくローテーションできる、そういうシステムが必要で、それはどこの会社も、現場もそうだと思うのですが、そのようにするのは、私が思うのは、こういう制度ですと決めるのも一つですが、実際働く人がローテーションを組むことが最高であるという意識を持たない限り成立しないなということがあります。本校の場合は、お互い様といつも口々に先生方で言っていますので、自分も休むことがある。だから、休んだときにはもう進んでという、そういう意識がやはり構築されるというのが大切かなと思っています。それが教育という、その力を借りて、子どもたちの中にも、男だから女だからではなくて、自分のできること、自分が活躍できる場を持って、そこで最大限力を発揮して、お互い様で困ったときにはその人が困り感がなくなるように、自分ができることはというように、協力するということが全てにおいて男女問わず人権を生かしていくという形で、社会がより良い方向に行くのかなと思っています。

<p>議長（会長）</p>	<p>ます。</p> <p>皆様のお話を聞いて、より一層学校教育の大切さを感じます。しかし、私の先輩方も飯塚委員もそうですが、たくさんの先生方がすごく苦勞してきて、教育をやってきておられますので、その結果が、今大人になった人や私、皆様も含めてでしょうけれども、その時代時代の、最善とされた教育が、大人になって実践される訳なので、そういった意味では、子どもも小さいうちは義務教育が頑張っていくとともに、やはり家庭、そして地域というのが大事だなと思っております。</p> <p>ただ意見を言っているだけですが、皆様がおっしゃるとおり、皆様の意識が向上するように、何か発信していくというのは大変いいことだとは思いますが。</p> <p>ありがとうございました。やはり小学校、中学校、その教育が、大人になってそのまま生かされていくのかなと思いますので、とても安心いたしました。</p> <p>子どもは、先生は今日何があったからお休みだった、そういうのも覚えていて、きっと自分自身に返ってくるのかなと思いますので、良かったです。ありがとうございました。ほかに何かございますか。</p>
<p>筒井委員</p>	<p>確かフリートークをした方がいいと御提案したのは私だと思うのですが、本当によかったと、今日は思いました。いろいろな最近のお話も聞けて、勉強になります。</p> <p>今お話を聞いて感じましたのは、私も若い頃は保育園に子どもを預けて働いていたのですが、やはり自分が働いているときは自分の仕事のことを一番に思ってしまう、どれだけ子どもに犠牲を払わせたのだろうかというところがすごく反省としてあるのですね。</p> <p>だから、これから若い方も、それこそ男性と同じように、現場に出て働くということは、本当に素晴らしいことだと思うのですが、それと並行して、どこかにひずみが出ていないか、弊害が現れていないかということと同時に考えていくということが、この先は非常に大事になってくるのではないかなと感じております。一つの解決策として</p>

	<p>やはり自分一人、自分の家庭だけで考えると、やはりあなた休みがすごいよという話になってしまったりするので、やはり地域、それから、行政に対しても、目を開いてということが、その解決策になるのかなということを感じました。</p> <p>それから職場自体もですね、自衛隊のDVの問題とかもありますよね。そういう、女性が職場に出ていくことによって、起こってくるいろいろな危険なこと、そういうことも並行して意識していかななくてはいけないのではないかなということも感じています。</p>
議長（会長）	<p>ほかにございますでしょうか。</p>
芝元委員	<p>ワークライフバランスの最初のところで、女性が仕事をもち男性と同等に働くために家庭との両立という、こういう書き方なのですけれども、これは男性の今の働き方を前提にしているように思うのです。今、男性の方が長時間働いていて、そこに合わせて、その同じ働き方を女性がするのを前提にして考えていませんかと思うところがあって、多分、他の外国と比べると男性が働きすぎで、そこに合わせていくというと、子どもには余計ひずみがあるということがありますので、女性も男性も輝けるように働くというか、それがたくさん働くということではなくて、女性も男性もやりがいのある仕事できて、お母さんになったらパートの仕事がメインという世の中ではなくて、女性も男性も責任のある仕事、やりがいを持って働くことができる、女性も男性も自分の家庭や子どもにとって、責任を持って、子どもとの暮らしなり、パートナーとの暮らしなりを生き生きと暮らす余裕のある暮らし、というようなことが、ワークライフバランスかなと思います。だから女性と男性と同等って言い方をしてしまうと、少し何かバイアスがかかったような感じがするのです。</p>
議長（会長）	<p>ほかにございますか。 ワークライフバランスで、あと4分ございます。</p>

芝元委員	<p>クォータ制と言うのが、ワークライフバランスの中で一番下に出てきますけれども、ワークライフバランスの一番早いのがクォータ制ではないのかなと思っているのですが。例えば男性と女性の比率、女性が最低3割ぐらいいないと、言いたいことは結局発言できないとか、3割5分ぐらいいるとまあまあ力を持ってくると聞いたことがあって、それは男性と女性でもあるし、逆に男性の方が少ないところもそうであるし、あるいは障がいのある人、若い人、年配の人とか全部同じようなことだと思うのですが、仮に男性20人の中に女性が1人いたら、何かその人個人の意見ではなくて女性代表みたいなものを妙に背負ってしまっているようなことがあるので、やはり3割ぐらいいは必要だねというのを見て、なるほどと思ったのです。</p> <p>そういうことを進めていくと、女性の目がちゃんと生きてきてワークライフバランス、女性にとって無理なことは、本当は男性にとっても仕事と他の生活とのバランスで行くと何かおかしかったのではないですかというようなことが見えてくる気がします。</p> <p>ちなみに市役所のクォータ制のような男女比とかはどのようなのかなと思います。</p> <p>別に、答えを求めている訳ではないのですが。</p>
人権・男女共同参画推進課長	<p>前回の審議会の報告にあるのですが、女性の管理職の割合を基準にしています。市の女性課長相当職の割合は、7人で12.3%、課長補佐相当職が19人で17.3%。消防もありまして、女性の消防職員が4人、目標6人にしています。男性職員の育児休業等の取得率は75%に上がっていますが、休暇を取った人数でやっておりますので、思いとは違うかもしれません。</p> <p>全体の男女比というものは、今は持っていないので、申し訳ありません。</p>
議長（会長）	<p>ありがとうございました。よろしいですか。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>他のテーマに移るお時間はないように感じますけれども。</p>

田中委員	<p>やっけてしまひましよう。</p>
議長（会長）	<p>そうですね。あと、言ひ忘れたことは大丈夫でしょうか。とても貴重な御意見を今日頂いて、いつもの審議会ですと、出せないようなお答えも頂いて、本当にこれからテーマとして、参考にしていただく部分が多いかなと思います。こちらで大丈夫ですか。</p>
飯塚委員	<p>先ほど課長への質問で、テーマとは少し違ひその他ということではいいですか。</p> <p>先ほど質問すればよかったですけれども、人権施策推進協議会と男女共同参画審議会が統合された後、名称は何になりますか。</p>
人権・男女共同参画推進課長	<p>今のところ、議題1のタイトルどおり、仮称が、人権・男女共同参画推進審議会ということでは。</p>
議長（会長）	<p>ほかはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、お時間がまいりましたので、委員提案による男女共同参画の協議についてはここで終了といたします。</p> <p>本日の協議は意見を一つにまとめることが目的ではございません。審議会の活性化、来年度の計画策定へ向け、男女共同参画についての一つの視点として、お心に留めていただき、より良い審議へ向けるための協議と考えております。</p> <p>事務局におかれましては、今後の男女共同参画の施策を進める上で、本日の委員の意見も参考にしていただければと思います。</p> <p>4月以降、協議をしていく場でも、本日のように皆様の活発な話合ひで、より良い施策への提案ができればと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
議長（会長）	<p>議題3 その他</p> <p>議題3について、事務局へ発言の有無を問う。</p>

<p>人権・男女共同参画 推進課長</p>	<p>前回（令和5年8月10日）の会議で、委員会の女性登用率につきまして、兼任を外した形での数字を質問されたのですが、保留にしておりました。その数字をお話させてもらいたいと思います。令和5年10月1日現在の数字ですけれども、委嘱している審議会は46審議会で、今までの兼任を含めた形と言いますと、男性417、女性266、合計683で登用率が38.9%で、兼任を除いた実人数ですね、男性306、女性195、合計501人で、同様の38.9%と、同じ数字でございます。兼任を外した登用率については以上です。</p>
<p>福祉部長</p>	<p>すみません。少し議題から離れて申し訳ございません。 先ほどの御意見を聞かせていただいている、言葉が悪いのですけれども、1回採ったアンケートよりも皆様の声が一番大事なのかなと思います。この審議会については、今回が最後という形になるのですけれども、皆様の意見を最後ではなくて、これから継続的に、次の施策にいかしていければと思っております。また最初の議案第1について、御了解いただいたということで、今後進めていくのですが、野田市男女共同参画審議会については、平成16年からありまして、既に20年になると思います。本当に皆様のおかげで、先ほどいろいろな御意見がありましたけれども、当時とは変わっていると私も思っております。ただこれがいいことではなくて、これからも変えていかなくてはならないと思っております。</p> <p>是非、これからも皆様の意見を私どもで聞いて、皆様と一緒に進められるような、施策をしていきたいと考えております。最後に、委員の皆様に関しましては、先ほど課長の方からお話があったとおり、重複しているところの一つになるということで、ひょっとしたら次の審議会に出られない方、新しい方になるかもしれないです。ただ、審議会委員でなくなったから何も言わないということではなくて、いつでも、私あるいは人権・男女共同参画推進課の方にですね、いろいろなお話を頂ければと思っております。本日は本当に貴重な御意見ありがとうございました。</p>
<p>議長（会長）</p>	<p>本日の議事について、全て終了いたしました。</p>

<p>人権・男女共同参画 推進課長補佐（兼） 啓発係長</p>	<p>今回の男女共同参画審議会が最後となるようで、今まで皆様の協力を頂きまして、無事に会長を務めさせていただきましたこと感謝申し上げます。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しいたします。御協力ありがとうございました。</p> <p>横川会長ありがとうございました。先ほど報告了承いただきましたとおり、新しい審議会が決まりましたら、委員の推薦につきましてはそれぞれの団体へ御連絡させていただきますので、御協力をお願いいたします。これをもちまして、令和5年度第2回野田市男女共同参画審議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	--